

地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さんにおかれましても常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

各診療科のご紹介



消化器外科

消化器外科 部長

きょうでん ゆうすけ
京田 有介 (写真前列中央)

当院は1995年4月に肝、胆嚢、膵、肺などの難治性癌に対する高度専門医療を行うことを目的に、全国で初めて分散型がんセンターとして、既存の総合病院に併設される形で設置されました。その目的は、「県民が身近な所で適切な診療や高度専門的な治療が受けられる医療体制の確立を目指して、がん専門医療施設の整備に必要なことを定める」と記載されており、その精神に沿ったものです。

当科では過去10年間で年間650～900例の手術を行い、そのうち300～430例が悪性腫瘍切除例です。現在“根治性、安全性を損なわないならば、できる限り低侵襲で”をモットーとし、積極的に腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術なども行っています。

令和4年度は腹腔鏡下で大腸手術135例、胃手術24例、肝切除12例を行い、ロボット支援下手術では県内初となる膵体尾部切除2例の他、直腸癌手術48例、結腸癌手術1例、を施行しました。また鼠径ヘルニアに対して単孔式（傷が一か所）の腹腔鏡下手術を開始しております。

術式については、早期癌に対する定型の手術から進行癌に対する血管合併切除再建を伴う高難度手術まで自院内で完結できる体制を有しています。難易度の高い腹腔鏡手術などは必要に応じて外部から講師を招聘し、安全と質を担保しています。

また、外科専門研修プログラムの基幹施設であり、東京大学、杏林大学、筑波大学、防衛医科大学校の外科専門プログラムと連携し、毎年2～4名の外科専攻医を受け入れています。現在、内視鏡外科技術認定医3名、肝胆膵外科高度技能専門医2名が在籍しており、資格取得への指導体制も整っています。スタッフは各専門臓器を持ちつつ、医局や出身大学の垣根を越えて、風通しの良い雰囲気の仕事ができるように気を配っています。近年話題となっている女性外科医が活躍できるような働きやすい環境づくりや働き方改革などへも柔軟に対応しています。

今後も、患者の希望に対して「ノー！」と言わない診療体制をさらに発展充実させていく予定です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。